【別添4】事業概要のまとめ（日本語版）

作成日：令和7年5月23日

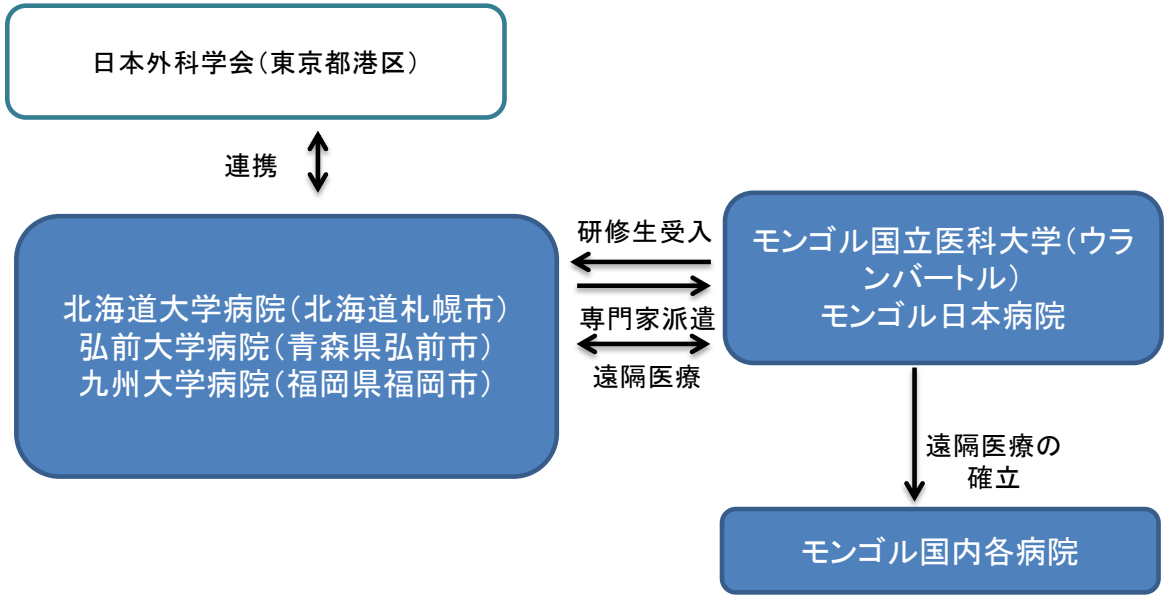
モンゴルと日本間での遠隔手術指導と遠隔手術の確立

①現地の状況やニーズなどの背景情報：モンゴル国は胃がんをはじめとした消化管がんの罹患率・死亡率が非常に高いが、専門医不足、卒後教育体制の不備、都市部と地方の医療格差があり、また腹腔鏡やロボット手術を担う専門医は少ない。

②事業目的：消化器疾患に関連する領域の医師育成を目標とする。さらにモンゴル全域で遠隔手術を活用することで地方にまで教育を行き渡らせ、モンゴル国内の医療格差解消を試みる。

③事業内容：九州大学病院等から消化器外科医、内視鏡医、放射線科医、病理医、遠隔医療技術者をモンゴル国立医科学大学と関連施設に派遣し、モンゴルからはモンゴル国立医科学大学を中心とした医療施設から医師を受け入れ、日本式の消化器疾患診療について基本～先進的な医療教育を行う。また遠隔医療教育を継続的に実施する土壌を育成する。

④本事業で期待される成果、波及効果：消化器疾患に関わる多領域において、効果の高い実地指導をモンゴルと日本において実施することで研修員の消化器疾患に対する理解がより深まり、遠隔医療教育を通じてモンゴル国内全体で知識・経験が強化される。日本とモンゴルの間で遠隔外科手術教育のシステムを確立し、、最終的にはモンゴル国立医科大学を中心としたモンゴル国内での遠隔手術のシステムを構築し、モンゴルの外科手術のレベル向上をはかる。



＜研修スケジュール予定＞

7月～9月 オンライン研修

- 医療スタッフによる診療・治療の講演、症例検討
- 遠隔手術指導の実証（録画ビデオなどで国際間での遅延などを測定し、リアルタイム手術実証への可能性を検討）

8月 専門家派遣（9名）

- 医療スタッフによる現地での臨床指導、現地での講演、医療機器の適正使用・管理の指導
- 技術者による現地視察、ライブデモ配信などの指導
- 遠隔手術指導に関するセミナー開催

9月　研修生受入（12名）

- 手術の実技研修
- 日本の遠隔手術の実情の研修